

2011年8月 5日 金

平成23年度 浦安市生涯学習フォーラム

特集 2



平成二十三年度浦安市生涯学習フォーラムが、八月五日(金)に浦安市文化会館小ホールで開催され、浦安市の教職員や市民の皆さんなど、約四〇〇人が参加しました。
日本大学文理学部の佐藤晴雄教授の豊富な体験とユニークな視点による基調講演に続き、学校教育支援や地域活性化、地域のスポーツ振興の現場などからパネリストを迎えたパネルディスカッションでは、「家庭・地域・学校の連携でこどもを育てる」をテーマに貴重な意見が交換されました。

パネル ディスカッション

家庭・地域・学校の連携でこどもを育てる

- | | |
|----------|-----------|
| コーディネーター | パネリスト |
| ●佐藤 晴雄氏 | ●生重 幸恵氏 |
| | ●樋口 末吉氏 |
| | ●宮澤 ミシエル氏 |

第二部のパネルディスカッションでは、佐藤晴雄氏をコーディネーターに、さまざまな立場で地域連携に携わっている3人のパネリストによるパネルディスカッション。それぞれの活動事例報告に続き、家庭・地域・学校の連携について、約九十分にあたり熱心な討議が交わされました。
生重氏は、東京都杉並区学校教育チーフコーディネーターとして、伝統文化学習・環境教育・福祉教育・情報教育などで、学校の学びの中に多様な地域人材を配置する役割を担っています。そのため、学校と地域のよい出会いのためにコーディネーターが必要とされていると述べるとともに、「学校をよく理解し、ニーズに合ったサポートをしていくことが、子どもたちのよりよい学習環境づくりに欠かせない」と語りました。
また、杉並区内全小中学校の土曜日学校・放課後子ども教室、学校支援に関する人材育成を委託し、子どもたちと一緒に楽しめる地域づくりを行ってきた経験を基に、「学校のなかにこんな人

基調講演



地域学校連携の現状と課題

講演要旨

日本大学文理学部教授 佐藤 晴雄氏

どうして今、学校と地域の連携が必要なのか。

それは、日本の歴史的な社会構造から今日的な教育課題に至るまで多くの要因がかかっています。

昨今、家庭の教育力の低下など親の問題のみが指摘されていますが、日本は、昔から塾を奉公や青年会など「第三者の教師」に委ねることが多くありました。「悪いことをすると怖いおじさんが来るよ。」と言つのもそのひとつです。

ところが、人間関係が希薄になった現代、この第三者が見当たらなくなりました。現代において第三者の役割を担うのが地域の人です。多くの地域で活発に活動している「親父の会」も、そもそも限界のある親の役割を、時には代わって担う、まさに「第三者の教師」と言えます。

た、学校支援の形も学習支援や安全パトロールだけでなく、学校の花壇の整備や環境づくりなど多様です。
学校と地域の連携を進めていくにあたっては、学校と地域の連絡調整を行う学校支援コー

がいたらいいなという要請を受けて、先生と協働していくボランティアをどのように養成していくか、「できる人が、できるとき、できるだけ」といった無理のない活動が、今後の学校と地域の連携にとって重要になると訴えま

総合型地域スポーツクラブ「見明川スポーツクラブ」の立ち上げから運営に携わってきた樋口氏は、設立経緯から現状までを報告。活動の中で特筆すべき点として、保護者が自ら講習会に参加し、指導者の資格を取得して子どもたちを教えていることを挙げ、「お父さんお母さんが子ども

たちとの関係を濃いものにする」とともに、子どもたちもそのがんばる姿を見て育っている」と活動の成果を述べました。
サッカーを通じた子どもの育成などに尽力している宮澤氏は、学校を訪問した経験から「外部から訪れた人間に対する態度で、その学校がわかる」と指摘。教育委員として、市の学校・地域連携事業の現状について報告するとともに、今後の課題として学校と地域のネットワーク強化の必要性について訴えました。

また、討議の中では、学校と世の中は別の時間で動いていると

今、学校教育においても、子どもにとって「第三者の教師」の役割を担う地域の人を学校支援ボランティアとして招いた教育活動が進められています。この学校と地域の連携における、学校支援ボランティアの活用は、学校教育に多くの「付加価値」をもたらしています。
一つ目は、「子どもの学習意欲の向上」です。ボランティアの方が学習支援を行うことで、学習内容が充実するだけでなく、子どもにとって多くの目で認めてもらう機会が増えます。声をかけてくれる大人が増えることで子どももやる気が高まります。
学習意欲の向上は、学力の向上につながります。地域の方がボランティアで参加している学校ほど学力が高いとも言われており、地域連携は子どもの学力

にも関係しているようです。二つ目は「安心・安全な学校づくり」への寄与です。「まちを歩いている子どもを見かけると気になる。これは学校支援ボランティアの声です。地域の方々が学校に関わることで当事者意識を持って学校の子どもたちを見つめ、それにより、見えないセイフティネットワークが構築されます。こうした意義を踏まえ、学校と地域との連携は教育基本法をはじめ、教育に関する法律にも明記されるようになりました。これまでは、学校の運営は校長と教員だけがかかわるものでしたが保護者や地域住民もかわる時代となったのです。
学校と地域の連携には、地域の人材が学校に入る形から、学校が地域に出て行く形、学校の施設の開放など様々です。ま



パネリスト 生重 幸恵氏



NPO法人スクール・アドバイスネットワーク理事長。平成14年に学校教育支援と地域活性化をつなげる目的で同法人設立。
現在は中央教育審議会委員や杉並区学校教育チーフコーディネーター等を務めるほか、企業の教育支援活動へのアドバイス等もしている。

パネリスト 樋口 末吉氏



NPO法人見明川スポーツクラブ理事長。平成14年に設立の同クラブは、平成21年にNPO法人となり、現在は15サークル16種目、会員総数約350人の規模にまで成長した。
浦安市学校評価検討委員会委員、見明川小・中学校評議委員としても活躍している。

パネリスト 宮澤 ミシエル氏



サッカー解説者・浦安市教育委員。千葉県出身。ジェフユナイテッド市原の選手としてリーグ開幕当初より活躍。引退後は、サッカー解説者として活躍する傍ら、サッカー指導やサッカーを通じた人材育成等の活動を行っている。
現在、3人の子どもの親。

最後に参加者からの質問を受け、パネリストから学校支援ボランティアを希望する地域の皆さんと学校間の調整役を果たす学校支援コーディネーターの役割と、地域との情報交換の重要性が語られました。